

猪名川自然環境委員会の経緯等

<目次>

1. 猪名川自然環境委員会及び構造検討部会の経緯	1
2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷	2
3. 議事要旨集	7
(1) 第32回猪名川自然環境委員会(令和5年1月27日)	7
(2) 工事予定箇所の現地確認(令和5年10月23日)	8
(3) 第26回猪名川自然環境委員会 構造検討部会(令和5年10月23日)	9

1. 猪名川自然環境委員会及び構造検討部会の経緯

「猪名川自然環境委員会」(H16.1～)

- 委員会は、猪名川流域における自然環境の整備と保全について、河川管理者に対して、必要な指導・助言を行うことを目的とする。(委員会規約第2条)

(五十音順、敬称略)

猪名川自然環境委員会 委員(第33回予定)・構造検討部会 委員(第26回)

氏名	所属等	対象分野	委員会	部会
川崎 雅史	京都大学大学院 地球環境学 都市基盤デザイン論 教授	景観デザイン	○	
竹門 康弘	大阪公立大学 国際基幹教育機構 客員研究員	応用生態工学	○	○
田中 哲夫	元兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授	魚類生態学	○	○
服部 保	兵庫県立大学 名誉教授	植物生態学	○	○
松井 正文	京都大学 名誉教授	動物系統分類学	○	
村上 興正	元京都大学大学院 理学研究科 講師	動物生態学	○	○※部会長
森下 郁子	一般社団法人淡水生物研究所 所長	比較河川学	○※委員長	

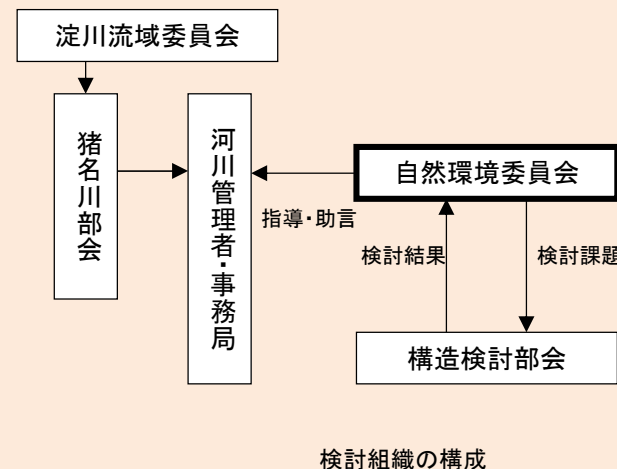
「猪名川自然環境委員会 構造検討部会」(H17.5～)

- 猪名川で実施される個別の事業において求められる環境面での配慮事項、河川環境に関わる縦断形や横断形等河川構造に関する事項、あるいは猪名川で自然再生を行うために実施すべき事業の内容等について審議するために、猪名川自然環境委員会の内部組織として構造検討部会を設置する。

【構造検討部会での検討項目】

構造検討部会では、猪名川自然環境委員会での審議内容を受け、次のような事項について検討する。

- ① 河川環境にかかわる縦断形や横断形等河川構造に関する事項
- ② 河道整備に関わる自然環境に関する事項
- ③ 工事实施に関わる自然環境に関する事項
- ④ 猪名川直轄区間占用申請物件の設置・改築等の自然環境に関する事項
- ⑤ その他猪名川自然環境委員会で委員長が指定した事項



検討組織の構成

(出典：猪名川自然環境委員会 第1回構造検討部会 議事概要)

構造検討部会

開催日	構造検討部会
H17. 5. 26	第1回部会
H17. 8. 10	第2回部会
H17. 12. 3	第3回部会
H18. 12. 5	第4回部会
H21. 3. 12	第5回部会
H21. 12. 4	第6回部会
H22. 3. 11	第7回部会
H22. 10. 22	第8回部会
H23. 2. 25	第9回部会
H23. 8. 11	第10回部会
H24. 2. 2	第11回部会
H24. 8. 14	第12回部会
H25. 1. 31	第13回部会
H25. 3. 9	第14回部会
H25. 8. 13	第15回部会
H27. 3. 11	第16回部会
H27. 10. 5	第17回部会
H28. 10. 26	第18回部会
H29. 9. 19	第19回部会
H30. 1. 18	第20回部会
H31. 10. 17	第21回部会
R 1. 10. 9	第22回部会
R 2. 12. 9	第23回部会
R 3. 12. 9	第24回部会
R 4. 10. 28	第25回部会
R5. 10. 23	第26回部会

工事予定箇所の現地確認

開催日	現地確認
H22. 1. 26	平成21年度(1)
H22. 2. 8	平成21年度(2)
H22. 3. 4	平成21年度(3)
H24. 8. 14	平成24年度(1)
H25. 3. 9	平成24年度(2)
H25. 10. 8	平成25年度(1)
H25. 12. 18	平成25年度(2)
H27. 10. 21	平成27年度
H28. 9. 30	平成28年度
H29. 7. 3	平成29年度
H30. 8. 27	平成30年度
R 1. 7. 10	令和元年度
R 2. 12. 9	令和2年度
R 3. 12. 9	令和3年度
R 4. 10. 24	令和4年度
R 5. 10. 23	令和5年度

猪名川自然環境委員会

開催日	検討会
H16. 1. 15	第1回委員会
H16. 3. 9	第2回委員会
H16. 10. 19	第3回委員会
H17. 3. 22	第4回委員会
H17. 9. 7	第5回委員会
H17. 12. 14	第6回委員会
H18. 3. 29	第7回委員会
H18. 3. 8	第8回委員会
H19. 9. 12	第9回委員会
H19. 9. 12	第10回委員会
H20. 2. 26	第11回委員会
H20. 3. 28	第12回委員会
H20. 10. 16	第13回委員会
H21. 3. 22	第14回委員会
H21. 12. 11	第15回委員会
H22. 3. 18	第16回委員会
H22. 12. 8	第17回委員会
H23. 3. 11	第18回委員会
H23. 10. 21	第19回委員会
H24. 2. 23	第20回委員会
H24. 10. 31	第21回委員会
H25. 3. 26	第22回委員会
H25. 10. 9	第23回委員会
H26. 11. 6	第24回委員会
H28. 2. 8	第25回委員会
H29. 2. 10	第26回委員会
H30. 2. 9	第27回委員会
H31. 2. 13	第28回委員会
R 2. 2. 6	第29回委員会
R 3. 1. 25	第30回委員会
R 4. 1. 27	第31回委員会
R 5. 1. 27	第32回委員会
R 6. 1. 18	第33回委員会

2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷(1/5)

これまでの委員会(猪名川自然環境委員会、構造検討部会、現地確認)の主な議題

年度	本委員会		構造検討部会		現地確認	
	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題
H15	第1回 (H16.1.15)	・猪名川自然環境委員会の設立趣旨について ・猪名川自然環境委員会規約(案)について ・委員長選出	—	—	—	—
	第2回 (H16.3.9)	・最近の取り組みについて(外来種対策としてのアレチウリの刈り取りとその後の追跡調査状況、一庫ダム下流河川環境復元へ向けての対策、河道内樹木調査結果について(猪名川・藻川分派点付近の状況)) ・当面の調査検討について(調査検討のプライオリティについて、モニタリング調査計画について) ・現地視察に参加できなかった委員への猪名川の現状に関する説明について	—	—	—	—
H16	第3回 (H16.10.19)	・猪名川の河川環境に関する目標について ・治水防災に関する工事の実施について	—	—	—	—
	第4回 (H17.3.22)	・構造検討部会の設置について ・土砂動態検討会の開催報告	—	—	—	—
H17	第5回 (H17.9.7)	・第1回構造検討部会での審議について ・淀川水系流域委員会の報告(ダムの検討結果)について ・第2回構造検討部会での審議について ・今後のスケジュールについて ・河道掘削による河川環境への影響検討について ・試験施工について ・総合土砂管理委員会の設立について	第1回 (H17.5.26)	・構造検討部会の位置づけについて(報告) ・構造検討部会での検討項目について(報告) ・銀橋開削に伴う河床掘削の河川環境へ与える影響について(審議) ・検討会実施フローとスケジュール(案)について(審議) ・本年度実施工事に係る環境調査について(審議)	—	—
	第6回 (H17.12.14)	・自然再生事業試験施工について ・河川環境の現況把握に関する資料整理(中間とりまとめ) ・本年度実施事業に係る環境調査について ・猪名川外来種生育状況調査について	第2回 (H17.8.10)	・第1回構造部会での意見・課題整理について ・今後の検討スケジュールについて ・河道掘削の考え方について ・河道掘削による河川環境への影響について ●河川環境の現況把握について ●河道掘削による環境への影響について ●今後の調査、検討の進め方について	—	—
	第7回 (H18.3.29)	・環境目標設定について ・自然再生試験施工について ・土砂動態の検討状況について ・平成17年度工事実施箇所環境調査結果について ・善法寺地区におけるチガヤ移植の実施について ・出水後環境調査結果について	第3回 (H17.12.3)	・自然再生事業試験施工について	—	—
H18	第8回 (H18.12.17)	・河原再生試験施工について ・土砂動態の検討状況について ・平成18年度実施工事環境調査結果について ・善法寺地区におけるチガヤの移植試験について ・横断構造物の影響調査について	第4回 (H18.12.5)	・河原再生試験施工について ・土砂動態検討の状況報告	—	—
	第9回 (H19.3.8)	・自然再生試験施工モニタリング計画について ・猪名川の河川環境の現況について(報告) ・チガヤ移植試験結果について(報告)	—	—	—	—
H19	第10回 (H19.9.12)	・平成19年度委員会の検討方針および概要とスケジュールについて ・今年度の調査について(報告)	—	—	—	—
	第11回 (H20.2.26)	・環境目標の検討について【審議】 ・H19年度試験施工モニタリングについて【報告】 ・伐木計画について【報告】	—	—	—	—
	第12回 (H20.3.28)	・各種モニタリング調査等について	—	—	—	—

H15、H21、H22:
外来種対策(アレチウリ)

H16、H18、H19:
猪名川の河川環境
に関する目標

H17:構造検討部会の設置、
総合土砂管理委員会の設置

H17~H24:
自然再生試験施工
の検討(河原環境再生)

H17、H18、H20、H23:
総合土砂管理委員会の報告

2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷(2/5)

これまでの委員会(猪名川自然環境委員会、構造検討部会、現地確認)の主な議題

年度	本委員会		構造検討部会		現地確認	
	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題
H20	第13回 (H20.10.16)	・自然再生計画について ・工事施工箇所の環境調査について ・各種調査の中間報告	—	—	—	—
	第14回 (H21.3.22)	・前回委員会の議事概要とその後の対応について ・部会等報告 ①構造部会の報告(平成21年度工事予定箇所の環境調査について、河原再生試験施工について) ②土砂委員会の報告(平成21年度モニタリングについて)	第5回 (H21.3.12)	・猪名川のモニタリングについて(自然再生事業を例として) ・平成21年度工事(予定)に関する環境調査について ・試験施工モニタリングに関わる環境調査について ・大井井堰(藻川)魚道設置状況について	—	—
H21	第15回 (H21.12.11)	・平成21年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・河川縦断方向の連続性回復計画について ・外来種対策について ・河原再生試験施工モニタリング調査(中間報告)	第6回 (H21.12.4)	・平成21年度工事予定箇所の環境への影響について(現時点での追加工事) ・平成21年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・河川縦断方向の連続性回復計画について	H21年度(1) (H22.1.26)	【川西・池田地区築堤・護岸他整備工事のうち、旧池田井堰工事(魚道の設置)】
	—	—	—	—	H21年度(2) (H22.2.8)	【北伊丹レキ河原再生工事】
	第16回 (H22.3.18)	・前回委員会議事概要について ・構造部会の報告 ①平成22年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ②猪名川魚がのぼりやすい川づくりマスタープラン(簡易魚道の検討) ・外来種対策について	第7回 (H22.3.11)	・平成22年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・大井井堰簡易魚道のモニタリングについて ・猪名川魚がのぼりやすい川づくりマスタープラン(簡易魚道の検討) ・平成21年度工事箇所の現地視察報告(報告)	H21年度(3) (H22.3.4)	【川西・池田地区築堤・護岸他整備工事のうち、旧池田井堰工事(魚道の設置)】
H22	第17回 (H22.12.8)	・外来植物対策マニュアル案について ・構造部会の報告 ①平成22年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ②三ヶ井井堰簡易魚道の検討について ・モニタリング調査について(中間報告)	第8回 (H22.10.22)	・三ヶ井井堰簡易魚道の検討 ・平成22年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ①第7回構造検討部会での指摘事項について ②新規報告工事 ・大井井堰簡易魚道のモニタリング結果(中間報告) (報告)平成21年度工事箇所の現地視察報告	—	—
	第18回 (H23.3.11)	・工事箇所モニタリング調査について ・河原再生試験施工地モニタリング調査について ・平成23年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・外来植物対策マニュアル案について	第9回 (H23.2.25)	・平成23年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・工事箇所モニタリング調査について	—	—
H23	第19回 (H23.10.21)	・構造検討部会の報告 ①平成23年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ②簡易魚道について ・河原再生試験施工地モニタリング調査について ・北伊丹レキ河原再生工事モニタリング調査について ・椎堂河道掘削工事調査結果について ・魚道の遡上について	第10回 (H23.8.11)	・平成23年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・簡易魚道の検討について	—	—
	第20回 (H24.2.23)	・平成24年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・平成24年度工事箇所モニタリング調査計画について ・平成23年度工事事前調査結果報告について ・平成22年度工事事後調査結果報告について ・第10回猪名川総合土砂管理委員会報告	第11回 (H24.2.2)	・平成24年度工事予定箇所の河川環境への影響評価と対策について ・平成24年度工事箇所モニタリング調査計画について 平成22年度工事事後調査結果報告について	—	—

H21～H23:
工事予定箇所の環境への
配慮(現地確認等を実施)

H21、H22、H23、H26～:
簡易魚道に関する検討・調査

2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷(3/5)

これまでの委員会(猪名川自然環境委員会、構造検討部会、現地確認)の主な議題

年度	本委員会		構造検討部会		現地確認	
	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題
H24	—	—	第12回 (H24.8.14)	・平成24年度工事予定箇所への影響と対策について ・平成24年度自然再生箇所等のモニタリング調査計画について	H24年度(1) (H24.8.14)	【第12回構造検討部会 現地視察】 ・戸ノ川橋(猪名川左岸0.8k付近)(戸ノ内地区河道浚渫工事) ・利倉橋(猪名川右岸2.8k付近)(利倉地区他河道掘削工事) ・猪名川・藻川分派点(藻川分派地区河道掘削工事・伐木(藻川3.8k～4.5k)) ・最明寺川合流点高水敷(猪名川右岸9.6k付近) (猪名川大橋地区礫河原再生工事・久代北台井堰簡易魚道設置工事) ・猪名川左岸10.4k付近堤防天端(池田床固簡易魚道設置工事)
	第21回 (H24.10.31)	・平成24年度工事予定箇所への影響と対策について ・平成24年度自然再生箇所等のモニタリング調査について	第13回 (H25.1.31)	・河原再生試験施工に関するとりまとめ ・平成25年度工事予定箇所への影響と対策	—	—
	第22回 (H25.3.26)	・第21回自然環境委員会・第11回総合土砂管理委員会での指摘とその対応 ・北河原地区河原再生試験施工に関するとりまとめ ・平成25年度工事予定箇所への影響と対策	第14回 (H25.3.9)	・平成25年度工事予定箇所の現地指導とりまとめ ・北河原地区河原再生試験施工に関するとりまとめ	H24年度(2) (H25.3.9)	【第14回構造検討部会 現地指導】 ・高木井堰周辺(東久代地区河道掘削他工事(低水路掘削部分)) ・箕面川合流点付近(北伊丹地区他河道掘削他工事) ・右岸6.6k付近堤防天端(北河原地区河道掘削工事) ・呉服橋周辺(川西・池田地区河道掘削工事(下流部)) ・加茂井堰周辺(川西・池田地区河道掘削工事(上流部))
H25	—	—	第15回 (H25.8.13)	・平成25年度工事予定箇所の自然環境への配慮事項	—	—
	第23回 (H25.10.9)	・第22回自然環境委員会および第15回構造検討部会の議事概要の確認 ・事業実施にあたっての自然環境への配慮事項 ・台風18号出水について	—	—	H25年度(1) (H25.10.8)	【ヒメボタル調査に関する現地指導】 ・ヒメボタル幼虫調査の調査計画 ・チガヤ群落の調査内容 ・(場所)北伊丹地区河道掘削他工事現地(左岸7.3k付近)
	—	—	—	—	H25年度(2) (H25.12.18)	【簡易魚道等の構造・調査に関する現地指導】 ・池田床固の仮復旧および魚道計画 ・簡易魚道モニタリング調査結果 ・ヒメボタル調査結果(中間報告) ・(場所)池田床固、高木井堰、三ヶ井井堰、北伊丹地区河道掘削他工事現地
H26	第24回 (H26.11.6)	・平成24・25年度の工事実施状況および環境調査結果について ・魚道およびヒメボタルのモニタリング調査について ・水質の現況と改善の取り組みについて	第16回 (H27.3.11)	・河川整備計画の進捗状況について ・ヒメボタル幼虫等の調査結果について ・河道掘削モニタリング計画(案)について ・河道内樹木の伐採について	—	—
H27	第25回 (H28.2.8)	・河道掘削モニタリング計画(案) ・簡易魚道モニタリング計画(案) ・平成27年度工事箇所の環境面からの評価 ・平成28年度の工事予定	第17回 (H27.10.5)	・河道掘削工事に関する自然環境委員会の指摘と対応 ・河道掘削モニタリング計画(案) ・簡易魚道・ヒメボタル保全地のモニタリング調査 ・平成27年度工事予定箇所の環境配慮	H27年度 (H27.10.21)	【平成27年度工事予定箇所に関する現地確認】 ・猪名川右岸6.2k付近(藤ノ木地区低水護岸他補修工事) ・猪名川右岸7.4～7.8k付近(下河原地区他河道掘削他工事(猪名川7.4k付近)、下河原地区他河道掘削他工事(猪名川左岸7.6k付近)、池田地区河道掘削他工事(猪名川7.8k付近)) ・猪名川右岸8.2～8.4k付近(下河原地区他河道掘削他工事(猪名川8.2～8.3k付近)、池田地区河道掘削他工事(猪名川右岸8.4k付近)) ・猪名川右岸10.4～11.0k付近(池田地区河道掘削他工事)
H28	第26回 (H29.2.10)	・規約について ・猪名川自然環境委員会の経緯及び主な論点の整理 ・河道掘削モニタリング調査結果 ・簡易魚道モニタリング調査結果 ・平成28年度工事箇所の環境面からの評価 ・平成29年度の工事予定	第18回 (H28.10.26)	・猪名川自然環境委員会の経緯及び主な論点の整理(構造検討部会に係る事項) ・平成28年度の工事予定箇所の工事概要 ・平成28年度河道掘削モニタリング調査結果(中間報告) ・平成28年度簡易魚道モニタリング調査結果(中間報告)	H28年度 (H28.9.30)	【平成28年度工事予定箇所に関する現地確認】 ・猪名川右岸0.8k～1.1k付近(戸ノ内地区掘削工事) ・藻川左岸3.2k～3.4k付近(田能地区災害復旧工事) ・猪名川左岸7.2k付近(中村地区堤防拡幅工事) ・猪名川右岸0.8k～1.2k付近(東園田地区堤防強化工事) ・猪名川左岸3.4k～3.6k付近(危機管理型ハード対策(堤防法尻補強)) ・猪名川右岸8.2k～8.4k付近(河道内樹木伐採) ・猪名川左岸8.4k～8.8k付近(河道内樹木伐採)

H24～:
工事予定箇所の現地確認・環境面からの評価・対応を継続的に実施

H27: 河道掘削モニタリング計画、簡易魚道モニタリング計画を作成し、計画に基づき評価を実施

2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷(4/5)

これまでの委員会(猪名川自然環境委員会、構造検討部会、現地確認)の主な議題

年度	本委員会		構造検討部会		現地確認	
	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題
H29	—	—	第19回 (H29.9.18)	・猪名川自然環境委員会の経緯及び主な論点の整理 ・平成29年度の工事予定箇所の環境面からの評価(案) ・猪名川・藻川の河道及び河川環境の特性 ・平成29年度河道掘削モニタリング調査結果(中間報告) ・平成29年度簡易魚道モニタリング調査結果(中間報告)	H29年度 (H29.7.3)	【平成29年度工事予定箇所の工事概要及び環境調査結果】 ・小中島地区護岸補修工事 ・小中島地区護岸補修(その2)工事 ・(仮)東園田地区遮水矢板工事 ・(仮)今在家地区遮水矢板工事 ・(仮)利倉地区河道掘削工事・(仮)岩屋地区河道掘削工事 ・北伊丹地区礫河原再生工事 ・戸ノ内地区他堤防強化他工事 【平成30年度工事予定箇所の工事概要及び環境調査結果】 ・桑津橋地区礫河原再生工事 ・(仮)木部地区河道掘削工事・(仮)小戸地区河道掘削工事 ・(仮)利倉地区遮水矢板工事 ・(仮)額田地区法尻補強工事 ・(仮)東園田防災拠点整備工事 ・(仮)東園田橋梁取付工事 ・(仮)原田西地区カメラ設置工事・(仮)天津東ノロ地区カメラ設置工事・(仮)桑津地区カメラ設置工事
	第27回 (H30.2.9)	・平成29年度 猪名川自然環境委員会構造検討部会の報告 ・平成29年度工事箇所の環境面からの配慮 ・河道掘削モニタリングのとりまとめと今後の方向性 ・簡易魚道モニタリングのとりまとめと今後の方向性 ・その他	第20回 (H30.1.18)	・第19回 猪名川自然環境委員会構造検討部会の指摘と対応 ・河道掘削モニタリングのとりまとめと今後の方向性 ・簡易魚道モニタリングのとりまとめと今後の方向性 ・平成29年度工事箇所の環境面からの評価	—	—
H30	第28回 (H31.2.13)	・平成30年度 猪名川自然環境委員会 構想検討部会で得られた結果と課題 ・平成30年度工事箇所の環境面からの配慮 ・河川水辺の国勢調査の活用による環境影響モニタリング調査マニュアル(仮称)(案) ・平成30年度河道掘削モニタリング調査結果 ・平成30年度簡易魚道モニタリング調査結果	第21回 (H30.10.17)	・猪名川自然環境委員会の経緯及び主な論点の整理 ・平成30年度工事予定箇所の環境面からの評価(案) ・河川水辺の国勢調査の活用による環境影響モニタリング調査マニュアル(仮称)(案) ・平成30年度河道掘削モニタリング調査結果(中間報告) ・平成30年度簡易魚道モニタリング調査結果(中間報告)	H30年度 (H30.8.27)	・猪名川左岸2.8k付近利倉橋下部工事 ・猪名川3.6k～4.2k付近、左岸6.0k～6.2k付近原田西地区他掘削他工事 ・猪名川右岸6.4k～6.6k付近北河原地区災害復旧工事 ・猪名川右岸2.8k付近(仮)利倉橋下部工事 ・猪名川左岸6.0k～6.4k付近(仮)桑津橋地区礫河原再生工事
R1	第29回 (R2.2.6)	・令和元年度工事箇所の環境面からの評価 ・河原環境の再生の評価 ・河川縦断方向の連続性回復に関する取り組みの結果 ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	第22回 (R1.10.9)	・猪名川自然環境委員会の経緯及び主な論点の整理 ・令和元年度工事予定箇所の環境面からの評価(案) ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案) ・令和元年度河道掘削モニタリング調査結果(中間報告) ・河川縦断連続性回復に関する総括と今後の方策(案)	R1年度 (R1.7.10)	・猪名川左岸2.6k～12.6k猪名川管内樹木伐採工事 ・猪名川左岸2.8k～3.2k付近利倉地区河道掘削工事 ・猪名川左岸5.4k～6.0k付近、藻川4.2k～森本地区他河道掘削他工事 ・猪名川右岸9.2k～9.4k付近(仮)猪名川大橋地区河原環境再生工事
					R1年度 (R1.9.20)	【ヒメボタルへ配慮した樹木伐採についての有識者・NPOとの現地確認】 ・3.4k右岸(猪名川公園前) ・6.8k～7.3k左岸(中村・下河原)

H29:
河川水辺の国勢調査を活用したモニタリングを進めていくことを報告

H29:
猪名川・藻川の河道及び環境特性を整理

H30～:
河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)の作成に着手

R1:
河川縦断方向の連続性回復に関する総括と今後の方策(案)を報告

R1:
ヒメボタル幼虫の生息に配慮した樹木伐採方法を検討

2. 猪名川自然環境委員会における議題の変遷(5/5)

これまでの委員会(猪名川自然環境委員会、構造検討部会、現地確認)の主な議題

R2:
猪名川自然再生
事業 河原環境の
再生事業の完了
に伴う総括(案)を
報告

R3:
インパクト-レスポ
ンスの観点から工
事後等の河道の
状態把握の手法
を提案

年度	本委員会		構造検討部会		現地確認	
	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題	名称(開催日)	議題
R2	第30回 (R3.1.25)	・令和2度工事予定箇所環境面からの評価 ・猪名川自然再生事業 河原環境の再生の評価 ・「令和3年度両生類・爬虫類・哺乳類調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	第23回 (R2.12.9)	・令和2度工事予定箇所環境面からの評価(案) ・河原環境の再生の評価(暫定) ・「令和3年度両生類・爬虫類・哺乳類調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	R2年度 (R2.12.9)	・猪名川12.2k～10.2k付近、猪名川樹木伐採工事 (猪名川森本地区他河道他掘削他工事の中で実施) ・猪名川右岸9.2k～9.4k付近、猪名川大橋地区河原環境再生工事(猪名川森本地区他河道他掘削他工事の中で実施)
R3	第31回 (R4.1.27)	・工事箇所の環境面からの評価 ・過去の委員会指摘事項のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	第24回 (R3.12.9)	・工事箇所の環境面からの評価(案) ・過去の委員会指摘事項のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	R3年度 (R3.12.9)	・猪名川5.2k～6.0k+100m、河道掘削工事 ・猪名川左岸7.2k～7.4k、樹木伐採工事 (猪名川森本地区他河道他掘削他工事の中で実施) ・猪名川5.6k～6.0k付近、河道掘削工事 (猪名川河道掘削事業)※次期整備計画対応
R4	第32回 (R5.1.27)	・工事箇所の環境面からの評価 ・猪名川自然再生事業等のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	第25回 (R4.10.28)	・工事箇所の環境面からの評価(案) ・猪名川自然再生事業等のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	R4年度 (R4.10.24)	・猪名川0.6k付近～0.8k付近(猪名川河道掘削事業) ・猪名川2.2k+150m～2.6k+50m、3.2k+150m～3.8k+50m (猪名川東園田地区他河道他掘削他工事(河道掘削)) ・藻川1.0k～4.4k(猪名川東園田地区他河道他掘削他工事(樹木伐採))
					(R4.11.17、 R4.11.30) ※現地指導	・猪名川2.2k+150m～2.6k+50m (猪名川東園田地区他河道他掘削他工事(河道掘削))
R5	第33回 (R6.1.18)	・工事箇所の環境面からの評価 ・猪名川自然再生事業等のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	第26回 (R5.10.23)	・工事箇所の環境面からの評価(案) ・猪名川自然再生事業等のフォローアップ ・河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項(案)	R5年度 (R5.10.23)	・猪名川0.6k付近～1.2k付近 (猪名川戸ノ内地区河道他掘削他工事) ・猪名川2.2k+150m～2.6k+50m、3.4k付近 (淀川水系河川整備計画(変更)に基づく河道掘削)

3. 議事要旨集

(1) 第32回猪名川自然環境委員会 (令和5年1月27日)

第 32 回 猪名川自然環境委員会 議事要旨

1. 日 時 令和5年1月27日(金) 14:00～16:00

2. 場 所 国土交通省 近畿地方整備局 大手前合同庁舎 5階災害対策関連室2

3. 出席者 委員：川崎委員（WEB）、竹門委員、田中委員、服部委員、松井委員（WEB）、
村上委員、森下委員（委員長）
猪名川河川事務所：佐渡事務所長、星原副所長
山口総括保全対策官、酒井建設専門官、中山保全対策官
（工務課） 山崎工務課長、土山専門官
（園田出張所）鈴木所長
庶務：いであ株式会社 兵藤、佐中、高地、養田、野元、渡辺

4. 議 事 (1) 工事箇所の環境面からの評価
(2) 猪名川自然再生事業等のフォローアップ
(3) 「令和5年度底生動物調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川に
おける補足事項（案）

5. 結 果

(1) 工事箇所の環境面からの評価

(植生に関する環境配慮)

- 河道掘削工事におけるヨシ保全（猪名川 2.2k～2.6k）及び伐木・伐採（除根あり）におけるゴキ
ヅル保全（藻川 1.0k～4.4k）について、現地を見て指導・助言をしており、工事の実施の際にも
対応していただきたい。

(汽水域の干潟・浅場環境の保全・創出)

- 猪名川の汽水域において、今後のどのような環境を創出したらよいのかという問題設定ができ
ており、事業に反映していけるとよい。
- 河道掘削による将来の環境変化を踏まえて適地を選定し、実際に対策を講じることが重要であ
る。また、対策の実施後には、順応的管理として手直しをしていくことが重要である。
- 汽水域の環境をよくしていくことは重要であり、ヒメヌマエビが確認されたらすばらしい。汽水
域の生物として、特に底生動物や稚魚・仔魚に着目してみていくとよい。
- 現況の干潟に生息する生物の実態把握を行い、指標種を明確にしておく必要がある。

(2) 猪名川自然再生事業等のフォローアップ

(河原・水陸移行帯の再生のフォローアップ)

- 河原・水陸移行帯の再生は、河原・水陸移行帯ができたということだけでもよかったと考えてい
る。カワラサイコ等の河原固有の植物は、再生事業を実施しても戻ってこなかったが、上流域や
支流を含めて絶滅しているため、戻りようがない状況にある。
- 河原・水陸移行帯の再生は、比高の適切な維持管理に加えて、土砂が動くことにより自然裸地が

維持されるという両面から評価する必要がある。評価においては、土砂の動態を促進するような
対策が必要であることを記載していただきたい。

- 猪名川大橋地区で実施したオギの移植については、非常にうまくいっており、全く問題ない。

(縦断連続性の回復（魚道）のフォローアップ)

- 調査結果のとりまとめにあたっては、在来種と外来種の種数を分けて示していただきたい。在来
種がどのように変化し、外来種がどれだけ増加したのかが分かるようにする必要がある。
- アユは高木井堰までは遡上しているが、潜在的な生息域は直轄管理区間よりもはるかに上流に
ある。ウキゴリは直轄管理区間を生息域と考えてよい。評価にあたっては、遡上に対する移動障
害だけではなく、遡上した先に棲み場所があるのかを合わせて評価する必要がある。
- フォローアップにおいては、どことどのように繋がっていたらその河川が生き返るのかという
ことを考えていくことが重要であり、モニタリングとは異なっている。河川を生かすためにした
方がよいことを把握するためにも、上流の情報も把握しておく必要がある。
- モニタリング調査では、生物を相手にしているため完全に一緒にすることはできないが、どの業
者が調査を実施しても、比較できるような調査方法に近づけていただきたい。
- 個体数と種数の関係で何を指すのか目標値を考えていく必要がある。今後、もう少しデータを
積み重ねて魚道整備の基本的な方向性を決めていくことが重要である。

(一時的水域の機能)

- 生物にとって重要な箇所として、下流に広がる氾濫原の一時的水域（ワンド・たまり）があり、
ミナミメダカやタナゴ類が生息できる環境である。指標種としてイシガイ科二枚貝が重要であ
り、今後も調査を続けていただきたい。

(3) 「令和5年度底生動物調査」における河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における 補足事項（案）

(補足地区①の箇所の変更)

- 汽水域～淡水域の範囲が変化するため、猪名川の補足地区①は、下流端は1.0k、上流端は3.8k
まで入れた方がよいのではないかと。調査の方法・頻度・回数・箇所などはできる範囲で実施する
ことになるが、調査範囲としてカバーできている方がよいのではないかと。
- 汽水域～淡水域に生息する底生動物について、ヌマエビ類を着目する種に加えていただきたい。
- 考察・評価においては、横断測量や航空写真撮影を実施した際に、これらの物理環境に関する情
報を、調査結果と合わせて記録しておくことが重要である。

(魚類調査)

- 調査時期の文章で「盛夏になると、水温が高温になり魚類の活性が低下するため、注意が必要で
ある。」との記載があるが、感潮域から河川域で調査を行う上ではあまり生じないのではないかと。
決定的なことを記載しない方がよく、留意が必要である。

(陸上昆虫等調査)

- 令和4年度の河道掘削箇所付近でヒメボタルが多数確認されており重要であるため、令和6年
度河川水辺の国勢調査において陸上昆虫等調査を行う際に留意が必要である。

以上

工事予定箇所 の 現地確認 (猪名川自然環境委員会) 議事要旨

1. 日 時 令和5年10月23日(月) 13:00～15:00
2. 場 所 猪名川直轄管理区間内 工事予定箇所 (表1参照)
3. 出席者 委員 : 竹門委員、田中委員、服部委員、村上部会長 (部会長)
猪名川河川事務所: 菊田事務所長、星原副所長
唐松総括保全対策官、松本建設専門官、中山保全対策官
(工務課) 山崎工務課長、大西専門官
庶務: いであ株式会社 兵藤、佐中、村山、小森、横井

表1 工事予定箇所 の 工事名、現地確認箇所及び目的 (猪名川直轄管理区間)

工事名	現地確認箇所	現地確認の目的
猪名川河道掘削事業	現地確認箇所① (猪名川 0.8k 付近～1.2k 付近)	・汽水環境は猪名川において重要な環境であり、変更河川整備計画に合わせて今後全面的な掘削・浚渫が実施されることから、汽水環境における掘削に対する留意事項について現地の状況等を共有して指導・助言をいただく。
淀川水系河川整備計画(変更)に基づく河道掘削	現地確認箇所②-1 (猪名川 2.4k 付近右岸)	・令和4年度に現地確認及び委員会等を実施しているが、その時点では、工事断面は検討中であった。河道掘削により汽水域～淡水域の環境が変化するため、以下の環境配慮を行っており、工事内容について現地で確認し、ご指導・ご助言をいただく。 ・2.4k 付近にはヨシ等の湿地やワンドが存在しているが、治水上の余裕がないため、河床掘削により、干潟・浅場環境が消失する。 (環境配慮は 3.2k～4.0k 区間で緩傾斜勾配により対応、現地確認箇所②-2に移動した際に確認)
	現地確認箇所②-2 (猪名川 3.2k 付近右岸)	・治水上の余裕がある 3.2k～4.0k 区間で横断勾配 1/100 の緩傾斜断面により水陸移行帯を確保する予定である。 ・3.4k 付近は、現在の河床材料の粒径は大きいですが、潮汐による水位変動が生じるため、干潟・浅場環境が形成される可能性がある。

4. 結 果

- (1) 現地確認箇所①: 猪名川戸ノ内地区河道掘削他工事
- 【豆島周辺の干潟・浅場環境の創出】
- 多孔質構造の設置や土砂投入をするための周りの捨石敷設は最小限にし、敷設後に形状が崩れても問題はない。土砂が移動して地形が形成されることが重要である。
 - 工事の出来高については、運搬土量で管理できるのではないか。

【戸ノ内他地区】

- 淀川水系河川整備計画(変更)に基づく河道掘削は初めて実施するものであるが、塩分の範囲の変化を把握して、高水敷に余裕がある場合はその場で工夫できると良い。

(2) 現地確認箇所②: 淀川水系河川整備計画(変更)に基づく河道掘削

【猪名川 2.4k 付近】

- 潮間帯となる範囲は、河川整備計画(変更)に基づく掘削により、面積が減少するため、ミティゲーション(代償措置)を考える必要がある。代償措置として、面積を広げる努力が必要である。
- 高水敷の工夫により干潟環境広げるが、潮間帯が広がる上流域を緩傾斜勾配にする等ができるのではないか。同じ面積を作る方策を考える必要がある。
- まとまって成立するヨシ群落については、昨年度と大きな変化はなく、セイタカヨシも大きく変化していないことを確認した。

【猪名川 3.4k 付近】

- 河道断面の工夫の方法としては、水中部も含めて掘削すれば良い。干潮位面よりも低い場所であっても、土砂が移動する過程で良い環境になれば良い。土砂移動による地形の変化を考慮した対策が必要である。

以上

3. 議事要旨集

(3) 第26回猪名川自然環境委員会 構造検討部会 (令和5年10月23日) (1/2)

1. 日 時 令和5年10月23日(月) 15:15～17:45

2. 場 所 国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 2階会議室

3. 出席者 委員：竹門委員、田中委員、服部委員、村上部会長（部会長）
猪名川河川事務所：菊田事務所長、星原副所長
唐松総括保全対策官、松本建設専門官、中山保全対策官
（工務課）山崎工務課長、大西専門官
庶務：いであ株式会社 兵藤、佐中、野元、村山、小森、横井

4. 開 会

（事務所長挨拶）

- これまでに河川工事に關する部分の環境の配慮すべき事項や自然再生の実施に關する事業内容について、様々な指導・助言をいただてきた。
- 氣候変動による影響で災害が激甚化、頻発化しており、令和3年8月に淀川水系河川整備計画を変更し、猪名川においては河道内での掘削事業が多く残っているという状況にある。
- 猪名川の貴重な自然環境を大切に育みながら必要なモニタリング等を行っていく。猪名川は地域住民の関心も高く重要性も認識されており、地域住民に身近な自然を取り戻し、保全していくことが大切である。

5. 議 事 (1) 工事箇所の環境面からの評価（案）

(2) 猪名川自然再生事業のフォローアップ

(3) 河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）

6. 結 果

(1) 工事箇所の環境面からの評価（案）

1) 猪名川戸ノ内地区河道掘削他工事

（評価結果）

- A評価とする（令和4年度からの継続）。

（干潟・浅場環境の創出）

- 河積確保を前提とした河道掘削形状について、外岸側（左岸）を掘り下げて、内岸側（右岸）を浅場にするような断面の工夫ができる余地があるのではないか。掘り下げる側の護岸を危険がないように防護することで、干潟・浅場環境の減少率を下げる対応ができるのではないか。

（豆島周辺の浅場・干潟環境の創出）

- 豆島周辺の干潟・浅場環境の創出について、捨石は最小限の量とし、盛土する土砂量を増やしていただきたい。重要なことは土砂が動くことである。捨石工は、その場に残したい最低限の土砂の量を確保できればよく、その上に盛る土砂は形状ではなく、投入土砂量で出来形管理をすればよい。現地で見るとは、現状の浅場でクロベンケイガニが取れており、比較的良質な砂を確保

- 現在は豆島に簡単に人が入ることができない状況にあるが、捨石で整備すると人が渡ってしまう可能性がある。クロベンケイガニの生息環境としては、人が入りにくい潮間帯の干潟がよく、ヨシ等が成立できるとよい。現状の豆島のように人が入ることができない（孤立している）ことで個体群にとって重要な役割を果たしている可能性がある。砂嘴が豆島下流に延伸するような形状もよいのではないかな。
- 戸ノ内側から豆島にはなるべく入りにくくし、潮位が上がると水没する環境とすることがよい。
- 豆島周辺で創出できる浅場・干潟の面積は限られているため、目標としては、猪名川における浅場・干潟の環境再生を前面に出した上で、豆島自体の価値があることを示していくことが良いのではないかな。

（豆島の植生管理）

- 豆島の植生は、トウネズミモチとクスノキ、その他常緑樹であり、大径木で樹高が高くなり将来的に問題となるため、関係団体や地元の方の話も聞きながら、望ましい植生を決めて伐採等の管理を行っていく必要がある。

2) 藻川橋堤防取付工事（仮称）

（評価結果）

- C評価とする。
- 重要種等は確認されておらず、工事による影響は小さいため、環境配慮事項は定めない。

3) 淀川水系河川整備計画（変更）に基づく河道掘削

（評価結果）

- B評価（令和4年度）からA評価に変更する。

（河道断面の工夫による干潟・浅場環境の創出）

- 現状の面積と河道掘削によって減少する面積を定量的に示していただきたい。猪名川・藻川分派地点より下流の猪名川下流域は、視覚的に見ても干潟・浅場の減少面積が大きいため、河道断面の工夫により干潟・浅場の面積を広げる断面について検討していただきたい。水深1m以下の浅場は生物にとって重要である。
- 「猪名川戸ノ内地区河道掘削他工事」で述べた意見と同様に、横断的な観点から、河道断面の工夫により、深い場所と浅い場所を横断面内で創出することで、干潟・浅場の面積を増やすことができるのではないかな。
- 縦断的な観点から、河道掘削の範囲（河床高の低い範囲）を上流側に延伸することで、上流側に潮間帯となる面積を増やすことができるのか対策として検討していただきたい。

（干潟・浅場環境の創出の目標及び評価）

- 干潟・浅場環境の創出の目標及び評価について、特定の指標種を定める必要はない。指標としては、特定の指標種の増減を見るのではなく、汽水域の環境を利用する種数がどれくらい増えたのか、確認された・確認されない種が何であるのかということを合わせて評価されればよい。
- 汽水域の生態系として考える必要がある。

3. 議事要旨集

(3) 第26回猪名川自然環境委員会 構造検討部会 (令和5年10月23日) (2/2)

4) 委員会指摘事項のフォローアップ

(ヒメボタルへの配慮)

- ヒメボタルは森林性であるが、尼ヶ崎には猪名川にしかない状況であり、河川の重要性が高い状況にある。現在示しているデータが古いので、新しいデータを把握した方がよい。尼崎市が調査を実施しており、聞いてみるとよい。猪名川 7.2k 付近左岸のハリエンジュ（ニセアカシア）の伐採後のヒメボタルの状況を把握する必要がある。
- 猪名川の陸上昆虫類等では、ヒメボタルとシルビアシジミの2種が重要である。なお、シルビアシジミの食草は、元々は在来種のミヤコグサであったが、現在は外来種のシロツメクサという不思議な状況となっている。

(植生に関する環境配慮（ゴキツル））

- ゴキツルについては工事後に移植し定着できており良かったが、今年は種ができているのか確認しているのか。

(植生に関する環境配慮（チガヤの保全））

- チガヤの分布面積約 4 万 2,700㎡は多いように考えられるが、工事の際に注意することは重要であるので広くとっていただくことでよい。堤防工事におけるチガヤの保全については、種を取って戻すのではなく、チガヤを掘り取ってチガヤのみを選んで置き置きし、工事後に戻す対策が容易であり効果的である。

(2) 猪名川自然再生事業のフォローアップ

1) 河原・水陸移行帯の再生フォローアップ

(河原・水陸移行帯の再生の効果)

- 自然裸地が増加傾向であるとするが、いつまで増加しているかを記載する必要がある。動植物調査は令和 2 年までしか実施されていないが、自然裸地については写真から植生化が進行していることが分かるので留意が必要である。
- 侵食・堆積面積（裸地面積）の変化について、河原・水陸移行帯の再生単独による効果ではなく、その他の河道掘削工事により土砂移動が促進されているため、これらと合わせて総合的に評価を行う必要がある。

(水陸移行帯の数値化)

- 物理環境の変化として水陸移行帯がどのように変化したのかを見ることが重要であり、示していただきたい。
- 水陸移行帯の面積は、200m 間隔の横断測量成果では、比高に関する正確な情報を得ることができない。ドローンの活用を含めて 3 次元データを定量的に把握していく方法があるため、選択肢として外さずに考えていく必要がある。但し、新たな調査をいうのを行う必要がある訳ではない。

(次世代に引き継ぐための自然再生事業のとりまとめ)

- 3 箇所（河原・水陸移行帯の再生）について、箇所毎の特性や効果の違いを相互比較し、次世代に引き継ぐための自然再生事業のとりまとめをした方がよい。自然再生事業のとりまとめをして次世代の委員に引き継いでいくことについて、構造検討部会の意見として、猪名川自然環境委員会に挙げさせていただく。

2) 縦断連続性の回復（魚道）のフォローアップ

(縦断連続性の回復の効果)

- 魚類の調査結果を見る限り、種数を含めて大きな変化は生じていない。現状の猪名川の縦断連続性や魚道の機能としては頭打ちになっていると考えられる。
- 河原・水陸移行帯の再生と生物の関係について、河原・水陸移行帯の再生によって、瀬・淵がどのように変化したのか。どの区間の地形が動き、その前後の生物相の密度の変化を本当は見れるとよい。これを目的としたデータはないが、遡上と蜆集の調査結果があるので、河原・水陸移行帯の再生工事と遡上と蜆集調査を実施している同一箇所において、その生息密度を比較することで、再生前後でどのような変化を把握できるのか見ることができるのではないかと。例えばトロ場を好むカマツカなどの変化が考えられる。
- 農業井堰は取水口があり、取水口には水集するようになっているため、魚道の位置との関係をみると考察できることがあるのではないかと。
- 令和 4 年度の委員会において、十分に遡上できると言えるデータになっていないと指摘した。例えばテナガエビを見ると、調査実施箇所のデータを見ても、H30～H31 年度では上流域まで遡上できているが、R4 年度には下流域にのみ集中して確認されており、改めて指摘する。

(今後の魚道整備)

- 今後としては簡易魚道ではなく、魚道の入り口に魚類が確実にアクセスできるように、本魚道を設置していただきたい。

3) 二枚貝に産卵する魚類の生息環境把握

-

(3) 「河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）

(陸上昆虫等調査)

- シルビアシジミの情報が記載されていないため、加えていただきたい。

(陸上昆虫等等の学識者)

- 猪名川自然環境委員会の委員には陸上昆虫類等の学識者がいないため、陸上昆虫類等を専門とする委員に入っていただきたい。

7. 閉 会

-

以上